

楽しくなければ介護じゃない



講師：川島 みどり 81歳 日本赤十字看護大学名誉教授
—プロフィール—

1931年生まれ。1951年日本赤十字女子専門学校卒業。日本赤十字社中央病院小児病棟を経て、母校の専任教員に従事した際、臨床に戻り、外来看護の確立を目指す。1965年東京看護学セミナーを結成。1984年健和会臨床看護学研究所所長、1995年第4回若月賞、2003年日本赤十字看護大学教授、2006年学部長を経て現職。2007年第41回ナイチンゲール記章。「東日本これからのケア」プロジェクト代表。

1971年より20年、看護婦として働く。その後は執筆、講演が多い。今も現役。乗り物の中が書斎で、仕事中毒。

生まれたのはソウル、6年いた。15歳まで韓国、中国にいて戦後引き揚げた。父は銀行員で各地を転々とした。自分は六人兄弟の長女だった。引き揚げ後、4回生で日本赤十字女子専門学校に入学。当時は教科書が無くノートのみ、先生が言うことを書いて学んだ。

また、先生のデモンストレーションでベッドの作り方、体のふき方…等学んだ。学生なのに夜勤や実務をしていた。

自らを犠牲にして患者に尽くす。差別してはいけない。事故をおこさない。を肝に銘じて学び、働いていた。皺のないベッドは当たり前です。

昔は女性の職業は限られていた。今の女性は選択肢が多い。あの頃は女性の仕事と言うと看護師しかなかった。今の子は「打たれ弱い」と思う。自分が働いていた頃は全寮で、寮を出る時は退職の時だった。白衣の天使は作られた言葉。

「看護」とは①人間の自然治癒力を引き出すこと。新鮮な空気、温かさ…が治癒力に繋がります。②診療の補助(採決、血圧を測る…)がありますが②の仕事が多い。

介護と看護は本来は同じだが、現在は管轄が違う。介護は、人間が自分でやらないといけない食べること、眠ること、排泄すること等をサポートすること。人々の生活の中から生まれた専門職。

今でも一日10分から20分、専門書を読んでいる。看護大好き、人間大好き！ 厳しいハードルを乗り越えた喜びは自分のものです。熱いお湯とタオルと石鹸があると病気は治せます。かなり末期症状の少女、としえちゃんの足を一週間、毎日洗ってあげた。後に背中を拭いてあげた。新陳代謝がスムーズになり、ある時、お腹がすいた…と言った。3ヶ月位、子供らしい生活をした後に亡くなった。患者さんの新陳代謝をスムーズにして自然治癒力を高めるのが介護の原点です。

「ずっと、いつかは“看護の時代”が来ると思っていました。だから、東日本大震災後に日野原重明先生が出された“いまこそ『看護』の出番です”というメッセージ*に、とても共感しました」と語るの、日本の看護の成長に貢献し続けている川島みどり先生。

2011年3月11日に起こった東日本大震災で被災した地域に、何度も足を運んだ。そして、病院・医療器具・電気など、あらゆるものがなく、高度医療が機能しない状態を目の当たりにしたとき「ナイチンゲールなら、この状況で何をしたらだろうか……。ここには、もう素手だけしか残っていない。今こそ“手当て”が必要だ」と、強く思ったという。

そんな折、医療界を牽引する日野原先生と、終末期にある高齢者の胃ろうによる延命治療に疑問を提示する石飛幸三先生とともに、看護について語り合う機会があった。当社から発行された『看護の時代——看護が変わる 医療が変わる』に収録するための鼎談である。「鼎談では、ケアを行う看護師の役割・専門性を再認識し、キュアからケアへ、医療に対する意識の転換の必要性を話し合いました。医師であるお2人も同じ思いをお持ちだったのがうれしかったです」

経験豊富な3人の言葉から “看護のやりがい”を再確認

本書『看護の時代』は、日野原先生からのメッセージ「すべての看護職のみなさまへ」から始まる。その後、3つの章で3人がそれぞれの医療・看護に対する考えを述べる。鼎談はその間に収録されている。3人の言葉から看護師の役割を再確認でき温かなエールに看護の素晴らしさや、やりがいをあらためて感じることのできる1冊だ。

I 「医療の概念を変えるのは、これからの看護である」では、日野原先生が「これまでの“医療”は、延命治療を重視し、医師主導で動いてきたが、これからは生活の質(QOL)をよくするために、多職種のチームで医療に取り組む必要がある」と提言。その中での看護師の役割や重要性を説明し、看護の力に対する期待を語る。

II 鼎談「これからの医療と看護を語る」では、3人が医療・看護の意義と役割について語り尽くす。「東日本大震災被災地での活動から見えてきた痛みを和らげる、安心させる“ケア”の重要性」「パートナーであるべき医師と看護師の関係性」、そして「キュアからケアへ」と転換する中での看護師の役割・技術」など、盛りだくさんな内容だ。